



重要文化財は なんと7棟もあるのです。

松城家住宅は、意匠的に優秀なもの・流派又は地方的特色において顕著なものとして、平成18年に主屋ほか6棟が重要文化財に指定されました。



①文庫蔵

大事な書物や貴重品の保管庫。東側に増築された張り出し部分には、古い金庫が残っている。

②北土蔵

味噌や漬物の貯蔵庫。

③主屋

1階が和風、2階が洋風のデザインで、地元の大工、植田儀兵衛により建てられた。室内には入江長八の漆喰彫刻が見られる。

④ミセ

帳付けや勘定をする帳場。2階は使用人が住めるようになっている。



⑤塀

敷地は積層切石積の石塀で囲われている。

⑥門

石で作られた高さ3m弱の門柱が左右にある。

⑦東土蔵

品物を収蔵する質蔵。松城家の蔵の中で最も上等なつくり。



国指定
重要文化財

松城家住宅

明治時代から現代へ、
当時の景色が蘇ります。

復元工事完了前に撮影。一般公開時には、外壁がより高く積み、当時の様子が再現されている。

ここも見てほしい！松城家まめ知識

「家相」を重要視

「家相」とは、土地や建物の方角や間取り等から吉凶を判断するものであり、古くから建築における重要な判断材料とされてきました。

設計者の穴戸頼母は家相学者であり、松城家住宅の平面や骨格は家相を重視している和風基調となっています。そのうえで、家相論に拘束されない外観や漆喰彫刻などが採用されており、折衷様式となっていました。



▲ヒロマヤオザシキでは、畳がはみ出していて収まりが悪く感じるが、家相で吉となる数に畳が敷かれている。



戸田にある「松城家住宅」は、江戸後期から廻船業などを営んでいた松城家の居宅として、明治初期に建てられました。平成18年に、建造物としては市内で唯一の国指定重要文化財に指定された、全国でも珍しい擬洋風建築の個人住宅です。

擬洋風建築とは、幕末から明治にかけて、日本人の大工らが西洋人の建築家の設計した建物を参考に建てた西洋風の意匠をまとった建造物です。和洋折衷の様相は、文明開化の象徴的な存在としてもはやされました。

松城家住宅は熟練した伝統的建築技術に基づいて洋風意匠を実現した擬洋風建築として高い価値があり、また芸術作品としても優秀な漆喰彫刻など当時の高度な左官技術を示すものとして大変重要です。

建てられてからおよそ150年が経過し、初めて大規模な保存修復工事を行いました。6年間に及ぶ工事が9月に終了し、いよいよ11月3日(祝)に一般公開を迎えます。今回の特集では、公開に先がけて松城家住宅を初めて訪れた2人が、おすすめポイントを紹介いたします。当時の趣をそのままに現代に蘇った「松城家住宅」をお楽しみください。

※一般公開は11月3日(祝)、15時からです。